

学校名 与論町立那間小学校

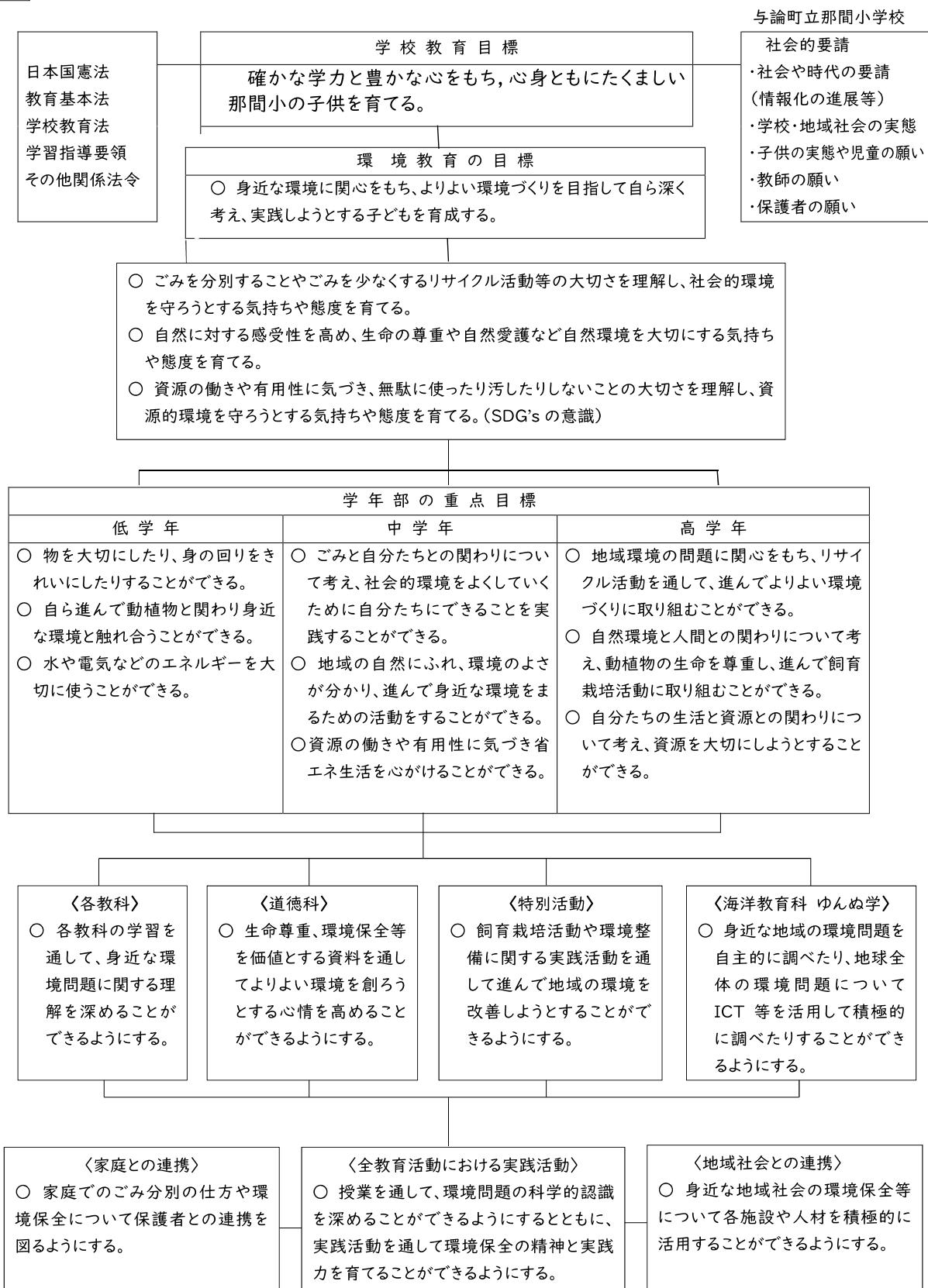
項目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>那間小学校は、鹿児島県の最南端、サンゴ礁に囲まれた自然豊かな与論島にある。畜産・農業が主要産業であるが、地域内には、黒花海岸、寺崎海岸、船倉海岸などを有し、自然と密に関わりながら、日常の生活を送っている。</p> <p>これまで総合的な学習で学んできた町内の漁業や観光業、海洋保全についての調べ学習を、教育課程特例校として海洋教育科『ゆんぬ学』に再構築し、体系的・探究的な学習活動に取り組んでいる。そこで育んだ、環境美化に対する問題意識や、身近な自然保護への意識が向上し、活動が盛んに行われている。これまで先人が守ってきた風景や受け継いできた産業を、与論島の景観を守りつつ活性化を図るために何ができるのかを模索し、実践を積み、発信しながら、様々な形で美化活動を推進している点が評価できる。</p>
2 受賞候補校等の活動状況等	<p>これまで社会科でごみの処理について学習した際、家庭から出るごみのほかに、「海にもごみがたくさんある」「与論の海や自然をきれいに保ちたい」という気付きがあった。日頃からビーチアクティビティなどで慣れ親しんでいる「海や島の環境を守りたい」という願いをもち、「自分たちにもできることがあるのではないか」という思いが高まり、活動の大きな原動力となっている。</p> <p>開始年月：令和3年4月</p>
(1) 活動の動機・頻度	<p>※ 学年ごとに愛称が異なる。</p> <p>① 活動を始めた動機及び開始年月</p> <p>5年 「ウンヌの海と環境 ～仲間と共に学び合おう～」</p> <p>6年 「ウンヌの「魅力」発信 ～ウンヌの美しい景観を残すために～」</p>
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	
③ 月間又は年間活動回数	<p>月1～2回程度</p> <p>※ 学年ごとに活動回数が異なる。</p> <p>5年 年間 59 時間</p> <p>6年 年間 38 時間</p>

項目	活動内容等
④ 活動のエリア	学校から海岸までの道路や、黒花・寺崎・船倉海岸などの校区の海岸
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	20名程度
⑥ 活動1回当たりの平均時間	1~1.5時間
⑦ 収集物の処理	燃えるごみ、不燃物、缶・ビン、ペットボトルなど、ごみの種類に分け、町の清掃センター・リサイクルセンターで処分する。
(2) 活動の独創性 活動の特徴	ごみが与える景観への影響について、実際に海岸清掃に行き、漂流物調べを行っている。ごみを分別し、簡単にグラフやマップにまとめるなどの分析をした。自分たちにできることはないか話し合い、ポスター作成などを行い、地域、保護者へ紹介をした。 ごみの散乱によって景観への影響があることを認識し、自分たちの地域に更に愛着をもって、きれいを守っていこうとする意識の高まりから、実際の行動に繋がっている点に独創性がある。
(3) 地域への貢献度	毎月の「町民一斉清掃」や年2回の「与論島クリーン大作戦」に積極的に参加しており、不定期に行われるビーチクリーニングにも学校として、また個人として積極的に参加している。
① 地域の環境美化への貢献	持続性のある活動にするために地域一体となって取り組むよう心掛けている。ボランティア団体「海謝美（うんじゅみ）」の活動に参加する児童もいる。また、それぞれの家庭で取り組めることを話し合い、ごみの分別、ごみの最小化など工夫をしている。
② 地域住民との協力活動	子供会の活動と兼ねて、地域の清掃活動等を行うことで、地域住民との交流や対話が増えている。自分たちの住む地域のことに関心をもち、これまで地域の方が守り続けてきた環境を今後も引き続き守り続けるための取組を紹介することで、地域の方に学校の活動を知ってもらい好意的に受け取っていただいている。
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	

項目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	環境教育全体計画の中で単独の教科で取り扱うではなく、横断的に行っている。景観学習の中でも、ごみの散乱が景観を損なうことになるという視点をもち活動を設定している。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	遠足や校外学習の際も、行き帰りの道や使用する施設や海岸に目が向き、自然とごみを拾ったり、自分たちがごみを出さないように工夫をしたりしている。また、町内一斉のクリーン作戦などにも積極的に参加し、自分たちの町や海岸の美化活動への意識が向上し、守ろうという意識の向上が見られる。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	「ウンヌの海と環境」ということで、サンゴを増やそうプロジェクトの一環で、漁協や鹿児島大学等のサポートを得て、サンゴの増殖実験に取り組んでいる。与論の海の環境問題にも関心を高めて活動している。
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか (受賞年月日と表彰機関名)	特になし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	海洋教育科「ウンヌの海の魅力」という学習で海岸のごみ拾いと漂流ごみなどの分別・調査を行った。そのような学習をすることで、自主的に登下校中のごみ拾いをしたり、家庭のごみをできるだけ減らそうとしたりするなど、取組が広がりつつある。休日に海岸清掃等の活動を継続的に行うような時間づくりもできている。
3 その他特記事項	特記事項なし

資料1

環境教育全体計画



資料2 令和7年度 ゆんぬ学（海洋教育）年間指導計画一覧表

太字…学年テーマ

学年／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 70時間 (53時間)	★ユンヌ大発見～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～ 「ユンヌのじまんを見つけよう」(30時間) ○ユンヌのいいところはどこ? ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。○ユンヌのひみつを紹介しよう。 「ユンヌの名人さん、大集合」(27時間) ○与論の昔のこと ○ウプ・パーパーと昔の遊びを通して交流 ○与論の文化・伝統調べ ○発表会を開こう											
4年 70時間 (60時間)	★知ろう ユンヌの海の魅力～地域を支える自然にふれて～ 「与論島と海と私たち」(30時間) ○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったもの作りを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。 ○ マリンスポーツを通して、海の魅力を知る。 ○ 与論の自然(海)を調べたり、体験活動をしたりしたことをまとめ、発表する。 「調べよう 作ろう ユンヌの作物」(30時間) ○ 与論の気候にあった作物を育て、収穫・加工することにより、郷土の農業の特色を知るとともに、親しみをもつ。 ○ 与論島の産業やサトウキビの歴史について調べ、生命や自然の大切さを感じる。											
5年 70時間 (59時間)	★ユンヌの海と環境～仲間と共に学び合おう～ 「ユンヌの海と環境問題」(38時間) ○ 与論の海の今を知ろう（課題設定） ○ 与論の海を守ろう（情報の収集） ○ 与論の海を守ろう（体験活動・実態調査を通して・整理分析） ○ 学んだことを発信しよう（まとめ・表現） 「仲間と共に学び合おう」(21時間) ○ 集団体験学習について知ろう ○ 集団体験学習(5月) ○ 集団体験学習を振り返ろう ○ これまでの自分を振り返ろう(13祝に向けて)											
6年 70時間 (38時間)	★ユンヌの「魅力」発信～ユンヌの美しい景観を残すために～ 「ユンヌの魅力発信(景観学習)」(38時間) ○「景観」について知ろう。(課題の設定) ○実際に校区を歩いて、地形、土地利用の様子を調査しよう。(情報の収集) ○那間の景観をつくっている「もの・人・こと」を調べよう(情報の収集・整理分析) ○景観を残すために、できることを考えよう。(課題の追求) ○未来に残したい那間の景観発表会。(まとめ・表現)											

資料3 那間小 海洋教育及び環境教育に係る写真集

海岸のごみ拾いと漂流物調査（4年生）



サンゴ増殖体験・サンゴ赤ちゃん観察会（5年生）



第一工科大学の西嶋先生と景観学習（6年生）



自分たちにできることの取組（授業外） 子供会で与論島クリーン作戦！！ 休日に海岸清掃



資料4 第一工科大学トピックスより

景観学習：第一工科大学 西嶋啓一郎教授

本学教員が与論の那間小学校において 景観学習の指導を行いました

2025-06-05

6月3日(火)、本学共通教育センターの西嶋啓一郎教授が与論町立那間小学校において、景観学習の指導を行いました。

同校は与論町にある3つの小学校の一つで、創立145年の歴史と伝統のある学校です。10,207km²の校地にはビオトープやヤギの飼育が行われ、周囲には緑の田畠が広がる静かで落ち着いた環境にある小学校です。

同校では、今年度から6年生のクラスで景観学習が始まりました。そのイベントとして鹿児島県景観アドバイザー派遣事業を活用することになり、県の景観アドバイザーでもある西嶋教授が派遣されました。

西嶋教授の景観学習の授業では、景観まちづくりが持続可能な地域づくりにつながることになるなどの事例紹介がなされ、生徒さんに以下の目標が掲げられました。
1) 景観学習を通して景観に関わる自分のまちの歴史や人の思いを知ることで、自分のまちへの思いや愛着を深めることができる。

2) よい景観を守るために(よりよくするために)、地域の一員として自分にできることを考え、実現に向けた計画を立案し、実践することができる。

そして授業の成果としては、生徒さんたちは自分たちで「与論の海を守るプロジェクト」を立ち上げ、その手始めとして、「さかなクン」に手紙を書き与論に来てもらうことが話し合われました。生徒さんの発案では、与論の海の素晴らしさをさかなクンに体験してもらい、そのことを日本中の人に伝えてもらうことで与論の海を守る大切さを繋げていくプロジェクトを推進するというものです。

その成り行きを楽しみにして、大学として応援できることも考えていきたいと西嶋教授は笑顔で話していました。

